

自らの考えを深めるための 算数科指導の工夫



—互いの考えが「つながる」少人数での交流活動を通じて—

算数・数学班 石田 淳一 (小学校教諭)

？が！に

学習の展開のなかに交流活動を取り入れることで

自らの考えが深まります

「つながる」少人数での交流活動

互いの考えが「つながる」とは、互いの言葉や数、式、図を用いた考えを説明したり、読み取ったり、続きを考えたりするなど双方向のやりとりのなかで自らの考えを深めていく交流活動のことです。

説明する 読み取る 続きを考える

一単位時間の学習の流れ



まずは自力で解くことにチャレンジ!

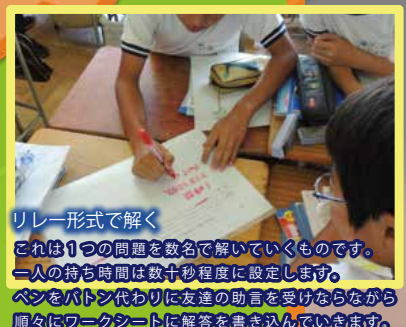


「新しい考えに気が付くことができた!」
「仲間と考えるよ、色々よくわかる!」
「授業が楽しくなった!」
児童の感想より



グループで比較・検討しています。

考えを述べ合うだけでなくリレー形式・クイズ形式などを取り入れると充実した交流活動になります。



リレー形式で解く
これは1つの問題を数名で解いていくものです。一人の持ち時間は数十秒程度に設定します。ペンをバトン代わりに友達の助言を受けながら順々にワークシートに解答を書き込んでいきます。解いていく中で課題に対してのお互いの考え方や式の意味などを説明し合います。

交流活動をするとうなるの?

自らの考えを元に「ペアでの交流活動」をすると... **自らの考えに自信が持てます。**
「グループでの交流活動」をすると... **比較・検討が生まれ自らの考えが深まります。**



学習の中に、少人数での交流活動を取り入れることで、
友達の考えに触れ、児童個々の考えが深まることにつながっていきます。

更新
交流活動の充実化のために
①教材研究・課題設定
②教具の準備・開発
③教師はファシリテーター
この3つの実践が児童の交流活動を更に充実させます。

※学習の内容に応じて、「個人」「ペア」「グループ」を展開の中での順序や組み合わせ工夫すると、学習の効果がより高まります。